

二〇二三年度
晃華学園中学校

第一回
入学試験問題

【国語】

時間…五〇分
配点…一〇〇点

答えはすべて解答用紙に記入すること。

問題は次のページから始まります。

一 「ぼく」(大崎海渡)は日本で生まれ、養父母と共にアメリカで暮らす十六歳の少年です。ピアノを演奏し、作曲やバンド活動を行っています。次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ぼくが音楽をつくっているのではなくて、音楽がぼくをつくっている。

こうして、ピアノにむかって作曲をしているとき、ふいに、そんなふうに見える瞬間がやってくる。

どこかで——たぶん、銀河系のかなたで——生まれた新しい星のようなメロディが、まるで流星の光みたいにはぐのからだのなかに流れこんできて、ぼくを占領してしまい、発熱し、からだからあふれそうになったその音楽が、指先から鍵盤の上にこぼれ落ちて、しずくがながって、新しい曲ができあがる。

ぼくの心は、喜びでいっぱいになる。

その喜びがまた、新しいメロディを、リズムを連れてくる。

① 作曲というのは、感動的かつ創造的な、喜びの光の連鎖だ。

ぼくのバンド仲間で、チェロ奏者のリンのことばを借りれば、雨つぶの連鎖か。いつだったか、リンはこう言っていた。

「私の音楽は、空から降ってくるの。雨つぶみたいだね。私はそれらをひとつぶ、ひとつぶ、拾いあつめて、川の流れになるようにして、演奏するの」

ぼくの場合には、空から降ってくるのは、木の葉かもしれない。

何か大きなものにみちびかれるようにして、ピアノを弾きながら、ぼくは思い出している。あの日、降ってきた小さなものを。

たしかにあの日、あの春の日、^②ぼくの手のひらのなかに一枚、木の葉がはらりと舞いおりてきた。

言の葉 落ち葉

いそがしく過ぎていく

一日と一日の

わずかなすきまに

満員バスのいちばんうしろの
ポツンと空いた
ひとつの座席に

立ち止まって見つめる

風のふきだまりに

落ちていることばがあります

忘れられて

行くところのないことば

ことばは落ち葉のように

大地に

舞いおりていきたいのです

けれどもさびしさのためか

みずからの重さのためか

③
ことばは

うずくまったままです

好きな曲を紹介したり、発表したり、送りあつたりできる「ベストフレンド」というネットサイト。そこに、※注に新美南吉の童話「小さい太郎の悲しみ」の一節をそえて投稿しておいた、ほくのオリジナル曲に対する感想として、その人は、自分の書いた詩を送ってき
てくれた。

④
メッセージは、何もそえられていなかった。

ただ、この詩だけが書かれていた。

もしかしたら、ぼくの曲に、詩をつけてくれたのだろうか。

「すばらしい」とか「大好き」とか「感動した」とか「うっとり」とか、一語か二語のコメントなら、今までに何度かもらったことがあるけれど、こんなふうに一編の詩を送ってもらったのは、はじめてのことだった。

ぼくのパソコンには、和訳・英訳機能と音声機能の両方がついているので、この詩を「音」におきかえて、日本語と英語の両方で、くりかえし、聴いてみた。

なんだかさびしそうな詩だ。

それが第一印象だった。

しずまりかえっている森が見えた。

あたりには、音もなく、落ち葉の雨が降っている。

やがて落ち葉は小雪に変わる。

森の奥で、うずくまったままふるえている、小さな女の子のすがたが見えた。

この子の胸のなかにも、小さい太郎の感じていた「悲しみ」が広がっているのだろうか。ぼくがいつも、朝から晩まで、笑っているときでさえ感じているあの「かなしみ」が。

いったい、どんな人がこの詩を書いて、送ってきてくれたのだろうか。

名前の欄をクリックすると、「いちまいのこのは」という音が聞こえてきた。

美しい名前だと思った。

まるで美しい物語のタイトルみたいだ。

自己紹介は「京都で生まれて、東京の郊外で育ちました。本を読むのが好きです。女子中学生です。ひとりで過ごすのが好きです。友だちは、動物と植物と小鳥と音楽。人間はきらいです——」

「にんげんはきらいです」

そのことばが心臓に突きささって、ぬけなくなつた。

新美南吉の童話「手袋を買いに」に出てくる、^⑤母さんぎつねのことばが浮かんできた。

——人間はね、相手が狐だとわかると、手袋を売ってくれないんだよ、それどころか、つかまえて檻の中へ入れちゃうんだよ、人間ってほんとにこわいものなんだよ。

ぼくはその日、日本に住んでいる中学生の女の子に、新しい音楽を送った。

彼女を元気づけたかった。はげましたかった。なぐさめたかった。

きみはひとりで過ごすのが好きかもしれないけれど、きみはひとりぼっちじゃないよ。きみは人間がきらいかもしれないけれど、ぼくはきみのことが好きだよ。

そんな思いをこめて、曲をつくった。

いや、そうじゃない。⑥ 曲がやってきたんだ。この詩が、日本語のことばたちが、音楽を連れてきてくれたんだ。

たったひとりの人にむかって、一枚の木の葉さんのために、ぼくはピアノを弾いた。そして、送った。特定の人だけに送ることのできる「パーソナルメッセージ」の機能を使って。ことばのメッセージは、つけなかった。ただ、音楽だけを送った。

返事はすぐには来なかった。

一週間が過ぎて、十日が過ぎて、めいわくだったかな、と、反省しはじめたころ、1 返事が届いた。

そこにはやっぱり、詩だけが書かれていた。

一作目よりも、ずいぶん明るくなっていた。

それがぼくから送った音楽のせいだったのだとしたら、ぼくはとても幸せだし、光栄だと思った。

花をあげたい

路地を走って

角のお菓子屋さんで

花屋さんの場所をたずねて

ばらの花束はたしかにすてきだし

スイートピーもかわいい

かすみ草が大好きだけど

涙の結晶なみだけっしょうみたいに見えるから

きょうは

赤いカーネーションで

大きな花束をつくります

リボンに明るい黄色をむすんで

⑦ 花をあげたい

あなたに

心をつたえたい

走って行って

「2」をありがとう」の気持ちをこめて、またピアノを弾いて、彼女に音楽を送った。

文章のメッセージは、ちょっと迷ったけれど、やっぱりなしにした。音楽が、ぼくのメッセージだからだ。

ぼくのことばは、ピアノが語ってくれる。

二日後、彼女からの返事が届いた。短い詩が一篇。短いけれど、軽快なリズム。受けとるとすぐに、ぼくからも短い音楽を送った。すぐに返事が届いた。俳句みたいな短い詩。

それから、ぼくらの「文通」が始まった。

ぼくはアメリカから、彼女は日本から「手紙」を送りあう。音楽と詩。それがぼくらの手紙だ。

日本とアメリカは地球の反対側にあるから、「パーソナルメッセージ」の欄に「地球通信」と、ぼくは名前をつけた。ふたりだけのメール通信だ。

木の葉と風の通信だ。

木の葉は風に詩を、風は木の葉に音楽を送る。メールというつばさに乗せて。

地球のこつち側から音楽を送ると、反対側から詩が返ってくる。

その詩を読んで、新しい音楽を送ると、また新しい詩が返ってくる。

ことばが音楽に変換へんかんされ、音楽がことばに変換される。毎回、驚おどろきと喜びに満ちている。それが「地球通信」だ。

(こでまり小手鞠るい『きみの声を聞かせて』)

※注 新美南吉の童話「小さい太郎の悲しみ」の一節

「しかし或ある悲しみは泣くことができませぬ。泣いたって、どうしたって消すことはできないのです。いま、小さい太郎の胸にひろがった悲しみは泣くことのできない悲しみでした。」という文章ぶんしょうが添そえられている。

問一 —— 線部①「作曲というの、く連鎖だ」とありますが、これはどのようなことを表していますか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア メロディとリズムが「ぼく」の中で自然と調和して、生命力にあふれた曲が次々にできあがるということ

イ メロディやリズムが勢いよく「ぼく」の体中を駆けめぐり、音の洪水こうすいに圧倒あつとうされそうになるということ

ウ 絶え間なくわき起こるメロディとリズムを利用して、「ぼく」が新しい曲を作り上げるということ

エ メロディやリズムが「ぼく」の中に流れこんでつながり、新しい曲が生まれて幸福感で満たされるということ

問二——線部②「ぼくの〜舞いおりてきた」とありますが、これは具体的にどのようなことを表していますか。次のア〜エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 「ぼく」がネットサイトに投稿した曲に対して、「いちまいのこのは」と名乗る「女の子」がさり気なく感想を寄せたこと

イ ネットサイトで「ぼく」の曲を聴いた「女の子」から返信が届き、音楽について語り合える相手に出会えたこと

ウ ネットサイトに投稿した「ぼく」の曲は、舞い落ちる木の葉のような、はかない印象を「女の子」に与えたこと

エ ネットサイトに投稿した「ぼく」の曲へ、「女の子」から一編の詩が送られてきて、「文通」が始まるきっかけになったこと

問三——線部③「ことばはくまます」とありますが、これはどのような様子を表していますか。次のア〜エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 「落ち葉」にたとえられた「ことば」が、行き場を失い、誰にもかえりみられない様子

イ 「ことば」が「落ち葉」のように力を失ってしまい、他の人に伝わらない様子

ウ 「ことば」が「落ち葉」と重ね合わされて、たくさんの言葉の中に埋もれている様子

エ 「落ち葉」と重ねられた「ことば」が、他の言葉と切り離されて、意味を持たない様子

問四——線部④「メッセージは、く書かれていた」とありますが、「女の子」がこのようにしたのはなぜだと考えられますか。次のア〜エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 「ぼく」の曲を聴いた感想を、知らない相手に、直接言葉で伝えるのはためらわれたから

イ 「ぼく」の曲を聴いて、自分も詩を発信すれば他の誰かにつながると思ったから

ウ 「ぼく」の曲を聴いてわき上がってきた思いを、詩という形式で伝えられたから

エ 「ぼく」の曲のイメージに合わせて自分も詩を作り、共同で発表したいと思ったから

問五——線部⑤「母さんぎつねの〜浮かんできた」とありますが、「ぼく」が新美南吉の童話の一節を思い浮かべたのはなぜだと考えられますか。次のア〜エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 人間はきらいだという「女の子」の言葉には、動物に危害を加える人間への嫌悪感が込められていたから

イ 人間はきらいだという「女の子」の言葉から、自分をおびやかす相手への警戒心が伝わってきたから

ウ 人間はきらいだという「女の子」の言葉から、辛くても一人で生きていこうとする強い意志が感じられたから

エ 人間はきらいだという「女の子」の言葉には、どうあがいても助からないというあきらめがにじみ出ていたから

問六 —— 線部⑥「曲がやってきたんだ」とありますが、これはどのようなことを表していますか。四十字以内でわかりやすく説明しなさい。

問七 1 にあてはまる言葉は何ですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア ほんのりと イ はらりと ウ さらさらと エ ふらりと

問八 —— 線部⑦「花をくあなたに」とありますが、これと同じ表現技法が用いられているものはどれですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 刃物はもののような冬が来た イ かもめかもめ 去りゆくかもめ

ウ とんでいこう どこまでも エ あなたの手のぬくみ

問九 2 にあてはまる言葉を、「花をあげたい」の詩の中から五字でそのままぬき出しなさい。なお、句読点や記号なども一字に数えます。

問十 —— 線部⑧「地球通信」とありますが、これはどのようなものですか。文中の言葉を使って四十字以内でわかりやすく説明しなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

バイオダイバーシティ
biodiversityと「生物多様性」の違い

海外の研究では biodiversity という言葉が普通ふつうに使われています。この言葉は英語として定着したと言ってよいでしょう。生物学者の岸由二ゆうじによれば、英語圏の人々は b と v と d の入った言葉が大好きで、それもあって biodiversity という言葉は普及ふきゅうしたのだ、とい

います。これは面白い見解だと思えます。それに対して、日本語の「生物多様性」はいかにも学術用語がくたくるふうで堅苦かたくしく、このままではこの言葉は普及しないとして、岸は

「(1) 生きものの賑にぎわい」という言葉を用いることを提案しています。

確かに「生きものの賑わい」のほうが、イメージがつかめそうです。周りに多種多様な生きものがたくさんいることが「生きものの賑わい」の姿といえるでしょう。岸はまた、生きものの種類が多様だけでなく、生きもののすみかが多様であることを重視します。種の多様性だけでなく、「すみ場所」の多様性が大切で、いろいろな場所に、いろいろな生きものが住んでいることが「生きものの賑わい」のポイントなのです。岸は、「流域」に焦点を合わせて、大地の凸凹にあわせて多種多様な生きものとともに暮らしていく、というビジョンを発信し続けています。

ダイバーシティ diversity はなぜ大事なのか

ところで、ここまでの話では、diversityがあつたほうがよい、賑わいがあつたほうがよい、ということが前提とされてきました。そのため、多様性や賑わいはなぜ必要なのか、という疑問をもった人もいるかもしれません。この点については環境倫理学や生態学のかなからいくつかの説明がなされています。

そのうちの有名なものは、それぞれの種を飛行機のリベット（留め金具）になぞらえる説明です。生態系を飛行機に見立てれば、それぞれの種は全体を支える留め金具なのであり、種が絶滅することは一つの留め金具が外れることで、全体の健全性を損なう（下手をすれば（2）飛行機がバラバラになる）というものです。また、何らかの病気が蔓延したときに、いろいろな遺伝子をもった生きものがいれば、全部が病気にかからなくて済む可能性が高まる、という説明があります。これも生態系全体の健全さに価値を置いた説明です。このように、個体、種、遺伝子のすべてのレベルで多様性が確保されているほうが、全体の生態系システムが維持される、というのが、生物多様性を重視する人たちの標準的な説明となっています（「賑わい」という言葉には、それに加えて地域社会の豊かさの要素が含まれているといえます）。

六回目の大量絶滅

以上から、種の絶滅を防ぐべきだという主張の最終的な根拠は、全体としての生態系の健全さを維持するため、ということになるかと思えます。

しかし、どのような生態系が健全なのかに関しては意見が分かれています。どういう状態が健全なのか、あるいはどの時代の生態系が理想形なのか、に関しては明確な答えは出ないと思われれます。というのも近年の生態学の研究から、生態系はダイナミックに変化するものだということが分かってきているからです。

そのことに関連して、最初にふれたような疑問が発せられることとなります。⁽³⁾ 長い期間をとれば種の絶滅は自然にたくさん起こっていることであり、それをあえて止めなければならないのはなぜなのか、という疑問です。

種の絶滅は、自然にたくさん起こっている。このことは生物多様性の保全に関わっている人たちも承知しています。問題は、①これまででないスピードで大量の種が絶滅していること、そして、②それが人間活動のせいだということ、この二点にあります。

一つ目の、絶滅のスピードが速いという点について見ていきましょう。過去を振り返れば、恐竜の絶滅期のように、種が大量に絶滅した時期が五回ありました。現在はそれらに匹敵する六回目の大量絶滅が起こっていると言われています。つまり今問題となっている絶滅は、長い目で見て自然に生じている絶滅ではなく、急速に大量に起こっている絶滅なのです。

そして二つ目ですが、現在の大量絶滅と過去の五回の大量絶滅には違いがあり、現在の大量絶滅は人間の経済活動（森林伐採など）によって引き起こされたものです。

一般に、自然界で起こることには人間の責任はないと考えられています。責任というのは、自由な選択ができる主体に属するものです。

I この本の内容については、私に責任が生じています。私は自分の判断で過去の学説を引用し、自由に意見を書いているからです。間違ったことや人を傷つけることを書いたら、非難の対象になります。

II 台風が直撃して家が壊れた場合には、台風に責任を問うことはできません。台風は自然現象であって、台風が家を壊すか壊さないかについての自由な選択の結果、家を壊したわけではないからです。

III 自然に起こった過去の大量絶滅については、人間に責任はないけれども、今回の大量絶滅は人間活動が原因であるため、人間に責任が生じているのです。

同じことは地球温暖化問題にも言えます。地球の気候が変化したことは過去にいくらでもあります。それらに対して人間に責任はありません。この場合も、ポイントは気候が変化していることにあるのではなく、①

③ iii、という三つの点がそろって初めて、人間の責任が問われてくるのです。

i

②

ii

以上の話から、生物種の絶滅を防ぐべき理由は生態系の健全さを維持すべきだからであり、しかも現在の生物種の絶滅はスピードが速く人間活動が原因となっているので、生物種の絶滅を防ぐ責任が人間にある、ということが理解されたかと思えます。

これらの説明は、第1章でふれた「人間非中心主義」のなかの「生態系中心主義」という立場に立ったものです。つまり、人間のためというよりは、生態系のために生態系を守ろう、そのために種の絶滅を防ごう、という主張です。

それとは別に、生物種の絶滅は人間にとっても残念なことだろう、という考え方もあります。これを「人間中心主義」（自然ではなく人間本位にものを考える立場）として嫌う人もいますが、⁽⁴⁾私は重要な論点だと思っています。

二〇一四年にIUCN（国際自然保護連合）はウナギを絶滅危惧種に指定しました。ウナギは今も普通に売られているので意外だと感じる人も多いでしょう。しかしこのままの状態で生産と消費が続けば、近い将来、食卓にウナギがのぼらなくなる恐れがあります。

これは第2章で取り上げた世代間倫理の話に関わってきます。このままウナギが絶滅したならば、世代間に大きな不公平が生じることとなります。つまり、現在の我々は「ウナギって美味しいね」と言っていたくさん食べることができいますが、将来の世代はその楽しみを享受することができないこととなります。そして将来の世代は、時間をさかのぼって過去の世代（つまり私たち）に文句を言うことができないのです。

さらに二〇二〇年にはマツタケが絶滅危惧種に指定されました。ウナギやマツタケのように食文化に関わるものについては、次のような論点もあります。商店街を調べて、「江戸時代にはここにウナギ屋があった」ということを知ったとき、私たちは過去とのつながりを感じることができません。ウナギ屋がどういふものかを私たちは知っていますし、ウナギ屋が江戸時代から存在することも知っているからです。マツタケを食べたことがある人はもちろん、仮にマツタケを食べたことがなくても、マツタケが何かはご存じでしょう。ドラマやマンガなどで「高級食材の代名詞」として使われるからです。しかし将来の人々はウナギもウナギ屋の風景も、マツタケが喚起する高級なイメージも、実感できなくなっているかもしれません。種の絶滅は文化や歴史の断絶にもつながるのです。

動物倫理との対立

ここまで、生物種の絶滅を防がなければならない理由として、人間非中心主義のなかの「生態系中心主義」による理由と、「人間中心主義」的な理由を挙げてきました。これらの立場から、生物の「種」を守る責任が人間（現代世代）にある、ということが議論されてきました。

それに対して、人間非中心主義にはもう一つ、「生命中心主義」という立場があります。この立場の人々は生物の「種」ではなく「個々の命」を守ることを主張します。「生きとし生けるものすべての命を尊重する」という立場から、「感覚を有する動物の福祉や権利を尊重する」という立場までありますが、特に後者は、近年「動物倫理」として関心を集めています。

動物倫理の立場から先のウナギの例を見るならば、生物種の絶滅を防ぐ以前に、ウナギを「食べる」行為自体がウナギへの加害行為だとして批判されることでしょうか。この例では、理由や程度は違えど、解決へ向けての方向性は同じもの（ウナギの販売を抑制する／禁止する）になります。他方で、動物倫理は環境倫理と対立することも多いのです。ここでは（5）動物倫理が「生物種の絶滅を防ぐ」運動や政策と対立するという点にしほって見ていきます。

二〇二一年七月に、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」が世界自然遺産に登録されました。奄美大島には、アマミノクロウサギという絶滅危惧種がいます。アマミノクロウサギという種と、それが住む生態系を守ることは、世界遺産登録により必須の義務となりました。

過去をさかのぼると、アマミノクロウサギは何度も絶滅の危機にさらされてきたことが分かります。一九九五年、奄美大島にゴルフ場開発の計画が持ちあがったときには、アマミノクロウサギやたくさんの野生生物の生息地が失われることが懸念されました。そこで地元の人たちが、アマミノクロウサギ他四種を共同原告にして裁判を起しました。これを「自然の権利訴訟」といいます。裁判は敗訴しましたが、裁判の途中で開発計画がなくなり、アマミノクロウサギは救われました。

次の脅威となったのが、マングースでした。ハブを駆除するために一九七九年に放たれた三〇匹のマングースが大繁殖し、二〇〇〇年には一万匹にまで増えたと言われています。そのマングースがアマミノクロウサギを捕食するとともに、農作物にも被害を与えることを理由に、防除事業が進み、現在は五〇匹以下にまで減ったとされています。

そして現在の一番の脅威とされているのが、ノネコ（飼い猫でも野良猫でもない、野生化した猫）による捕食です。あまり知られていませんが、ノネコとノイヌは何でも食べてしまうため、それまでいかなかった地域に持ち込まれると最悪の外来種になってしまいます。そのノネコが奄美大島で繁殖してしまったのです。

世界遺産登録を目指して、生態系と生物多様性の保全を目指す人たちは、アマミノクロウサギの絶滅を食い止めるべく、ノネコの大量捕獲ほかくに乗り出しました。それに対して、動物愛護団体から捕獲に反対する運動が起こり、二〇一八年には反対署名が五万筆に達しました。

近年、飼い猫や飼い犬を殺処分することは、非難の対象になっていきます。ドキュメンタリー映画『犬と猫と人間と』を見ると、殺処分の現状にやりきれない思いがします。同じイヌとネコなのに、飼い犬・飼い猫の場合は殺処分が非難され、ノイヌとノネコの場合は殺処分が是認ぜにんされるのは、おかしい気がします。「外来種」になったと勝手に殺処分が認められてしまうことに対しては、違和感いわかんを覚える人も多いでしょう。

(吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理 未来のために「しくみ」を問う』)

問一 —— 線部(1)「生きものの賑わい」とありますが、これはどのような状態ですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 生きものの種類が多様であり、鳴き声や羽音などで活気づいている状態

イ 生きものにとって暮らしやすすみかに、生きものが密集する状態

ウ いろいろな場所に様々な生きものが豊かに暮らしている状態

エ より住みやすい所を求めて、生きものが常に移動する状態

問二 —— 線部(2)「飛行機がバラバラになる」とありますが、これはどのようなことをたとえていますか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 生きものの中で遺伝子の病気が流行して、生きもの全体の数が少なくなる

イ 生きものすみかがあちこちに散らばり、それぞれの群れの規模が小さくなる

ウ 生きもの全体の秩序が失われ、生きもの同士の争いが絶えないようになる

エ 生きもの全体に悪影響えいきやうが及び、生きもの同士のつながりが失われるようになる

問三 —— 線部(3)「長い期間をく止めなければならない」とありますが、このように考えられるのはなぜですか。その理由を五十字以内でわかりやすく説明しなさい。

問四 I III にあてはまる言葉は何ですか。次のア～オの中から最も適当なものをそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア なぜなら イ つまり ウ さて エ しかし オ たとえば

問五 i iii にあてはまるものを次のア～エの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア 過去に例がないほどのCO₂が蓄積ちくせきして、それが原因だと思われる

イ けれどもそのCO₂の増加を防ぐことは非常に困難だと思われる

ウ しかもそのCO₂の増加は人間活動のせいだ

エ 過去に例がないほどの極端きょくたんな気候の変化が見られ

問六 A にあてはまる見出しは何ですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 日本の絶滅危惧種

イ 大量絶滅の歴史

ウ 生物種の絶滅を防ぐのは将来世代のためでもある

エ 大量絶滅は人間が防がなければならない

問七 (4) 「私は〃思っています」とありますが、それはなぜですか。その理由にあたる部分を、「〃から。」につなげる形でぬき出しなさい。ただし、「〃」の部分は二十字以内とします。また、句読点や記号なども一字に数えます。

問八 (5) 「動物倫理が〃対立する」とありますが、これはどのようなことですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 絶滅危惧種に害を与える生きものを殺処分することは、その害を与える生きものの命を尊重しないことになるということ

イ ゴルフ場開発などは、人間活動が原因となる自然破壊はかいとなり、生きものの生息地を奪うばうことにつながるということ

ウ 絶滅危惧種にとって暮らしやすい環境と、人間にとって便利な生活を維持できる環境は異なるということ

エ もともとペットであった生きものが、人間の都合で害を与える生きものになっただけのこと

三 次の①～⑧の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- | | | | | | |
|---|------------|---|----------------|---|----------------|
| ① | 活気をおびた街 | ② | ヒカク製品を手入れする | ③ | エンドウから選手を応援する |
| ④ | タンサン入りの飲料 | ⑤ | ザツカをあつかう店 | ⑥ | 月のタンサ機が打ち上げられる |
| ⑦ | キンセイのとれた体型 | ⑧ | 注文された商品をノウヒンする | | |

